

特定非営利活動法人

大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

平成 18 年度通常総会 議案書

開催日 平成 18 年 6 月 3 日

会 場 IFP 肥後橋ビル 802 号室

平成 18 年度通常総会次第

1. 開会のことば（理事）
2. 理事長あいさつ
3. 議長の選出（定款第 26 条）
4. 定足数の確認（定款第 27 条）
5. 議事録署名人の任命（定款第 30 条）
6. 書記の任命
7. 議事
 - 第 1 号議案 平成 17 年度事業報告、収支報告、監査報告の承認を求める件
 - 第 2 号議案 平成 18 年度事業計画案ならびに収支予算案の承認を求める件
 - 第 3 号議案 役員改選の件
 - 第 4 号議案 その他
8. 書記および議長の解任
9. 閉会のことば（理事）

事業報告書

(第2期)

自 平成 17 年 4 月 1 日
至 平成 18 年 3 月 31 日

特・大気イオン地震予測研究会
兵庫県川西市緑台 5-1-43

平成 17 年度事業報告書

平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

1 事業の成果

本法人の事業のうち、成立 2 年目である本年度では大気イオン濃度測定器の研究開発を行い、実用器を完成させることができた。これを全国 9 か所に稼働させ、オンラインデータ収集を行い、大気イオンデータでその発生源が推定可能かどうかを検討している。その他、研究会会員には測定情報のオンライン配信を行っている。

また、本法人の目的を達成するため、本法人主催講演会や関心を示す学会・研究会・市民サークル等で講演活動を行った。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
大気イオン濃度測定器研究開発事業	環境大気中のイオン濃度を正確に測定でき、なおかつ一括送信できるシステムを開発、改良	随時	岡山理科大学	8名	大気イオン地震予測研究に関心のある者不特定多数	61
全国的な大気イオン濃度測定事業	大気イオン濃度測定器を地震発生が予想される地域に新たに設置・測定	随時	岡山理科大学、兵庫県川西市緑台5丁目1-43、長野県松本市白板2丁目3-40、兵庫県南あわじ市阿万西町451、神奈川工科大学	25名	大気イオン地震予測研究に関心があり協力してくれる者不特定多数	8
		平成17年4月7日～	大阪府吹田市広芝町5-4			
		平成17年8月10日～	千葉大学伊予ヶ岳地殻変動・地球電磁気観測所			
		平成17年10月31日～	静岡県沼津市宮本140番地			

		前年度 ～平成17年7 月27日	岡山市津島東 2丁目2-9-5ラ モール津島 102			
測定データの オンライン収 集・処理・配信 事業	各地の大気イオン 測定器データをイ ンターネットで収 集し、その測定デー タと過去のデータ から発生源が推定 可能であるかの検 討およびインター ネット上での公開	随時	岡山市津島東 2丁目2-9-5ラ モール津島 102、大阪市西 区江戸堀1丁 目4-21日宝肥 後橋中央ビル 304号	6名	大気イオン地 震予測研究会 e-PISCOの会 員およびデー タ提供を希望 する者不特定 多数	292
研究成果の普 及啓発事業(大 気イオン地震 予測研究会 e-PISCO講演会)	大気イオンと地震 との関係について これまでの研究成 果を発表すると共 に、大気イオン測定 の重要性を述べ、測 定器の普及に努め た。また、協賛企業 と共同で震災対策 技術展に出展	随時	全国各地	15名	大気イオン地 震予測研究会 e-PISCO講演 参加者	383
研究成果の普 及啓発事業(大 気イオン地震 予測研究会 e-PISCO出版物)	大気イオンと地震 前兆現象と地震と の関係についてこ れまでの成果を著 書にした。	随時	大阪市西区江 戸堀1丁目 4-21日宝肥後 橋中央ビル 304号	1名	出版物(約1万 部発行予定) の読者不特定 多数	0

3 参考事項

(1) 理事会

本年度、理事会を2度開催(17年6月4日@岡山国際交流センター、18年2月2日@神奈川県立かながわ県民センター)し、本法人の運営について活発な議論を行った。また、理事会は電子メールによるメーリングリストを用いて、活発な議論を行った。平成17年度は420通のメールをやり取りした。このほか、平成17年4月16日に大阪NPOプラザで意見交換会を開催し、本法人の運営について活発な議論を行った。

(2) 会員の現況

本年度の特定非営利活動法人大気イオン地震予測研究会 e-PISCO の会員数は次のとおりである。

会員種別	正会員	正会員(学生・65歳以上)	賛助会員	合計
平成17年度末会員数	125	78	7	210
平成16年度末会員数	85	63	3	151

(3) 活動記録

04/07	大阪・吹田測定点の運用開始(大阪吹田市・株式会社ミラクルスリーコーポレーション社屋)
04/17	YTV よみうりテレビ「たかじんのそこまで言って委員会」で紹介。弘原海理事長が出演し、e-PISCO 予知法を解説
04/19	TUT チューリップテレビ「イブニング・ニュースとやま」で紹介。弘原海理事長が氷見で多数水揚げされるサケガシラと地震との関連性について解説
04/23	地震予知情報交流市民会議ゆっさゆっさ主催講演会にて弘原海理事長が講演(静岡清水区・清水マリニビル)。演題は「大気イオン法で海溝型地震の直前予知は可能か」
04/26	岡山・理大 1 測定点の測定結果をウェブ上で公開開始
05/03	「週刊女性」(主婦と生活社)で弘原海理事長が宏観異常について解説
05/16	ニュースレター2005 年春号(第 2 号)発行
05/18	徳島県鉄骨構造協同組合平成 17 年度総会で弘原海理事長が講演(徳島市・徳島ワシントンプラザ)
05/26	地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会で発表(千葉美浜区・幕張メッセ国際会議場) 「地震予知を目指した大気イオン濃度計測システムの開発」(西橋政秀・山本勲・能美洋介・弘原海清)
05/27	日本生物工学会第 10 回生物工学懇話会で弘原海理事長が講演(神戸中央区・神戸国際会議場)。演題は「地震予知研究でバイオテクノロジーに期待すること」
06/01	「1 年の科学 2005 年 6 号」(学習研究社)で「どうぶつたちが〇〇〇をしらせる」を弘原海理事長が監修
06/04	第 1 回理事会および平成 17 年度通常総会を開催(岡山市・岡山国際交流センター)
06/10	「土木学会誌 2005 年 6 月号」(社団法人土木学会)のミニ特集「一歩先を見る」で新潟県中越地震の宏観異常について弘原海理事長が解説
06/16	「週刊実話」(日本ジャーナル出版)で弘原海理事長が大気イオンや地震雲について解説
06/23	高知県溶接・レーザー研究会平成 17 年度総会で弘原海理事長と出田理事が講演(高知市・三翠園)。演題は「大気イオン法で南海地震は予知できるか」(弘原海)、「紀伊半島南東沖地震前の大気イオン濃度変化」(出田)
06/30 07/01	日本情報地質学会第 16 回総会・講演会で発表(岡山市・岡山理科大学理大ホール) ① 地震予知を目指した大気イオン濃度計測システムの開発(西橋政秀・山本勲・能美洋介・弘原海清・オゴー開発株式会社) ② 多地点広域イオンデータによる海溝型地震の直前予知(弘原海清・原口竜一・西橋政秀・岡本和人) ③ 岡山市内における地下水の水質変化および地震活動との関連(佐藤公亮・北岡豪一・弘原海清) ④ 大気イオン濃度計測データ転送システム(西橋政秀・原口竜一・和佐好智) ⑤ 《展示》地震予知を目的とした大気イオン濃度測定器(弘原海清・オゴー開発株式会社)
07/05	平成 17 年度宍粟職域防犯交通安全協議会定期総会で弘原海理事長が講演(兵庫宍粟市・山崎防災センター)。演題は「大気イオンによる活断層地震の直前予知—あなたにもできる、地震の予知—」
07/10	テレビ朝日「ドスペ!」取材班編「草野仁の緊急警告! 必ず来る巨大地震生死を分けるボーダーライン」(朝日新聞社)で紹介
07/21	日本大気電気学会 第 73 回研究発表会で発表(宮城多賀城市・東北学院大学工学部多賀城キャンパス) 「大気イオン濃度測定器の動作特性の評価と多地点計測ネットワークの構築」(西橋政秀・上村武司・山本勲・服部克巳・弘原海清・能美洋介・(有)ePI-NET 環境・情報ネットワーク総研・NPO 法人大気イオン地震予測研究会 e-PISCO)
07/27	岡山市津島東の事務局を閉鎖。岡山・津島東測定点を廃止
08/01	事務局を大阪西区江戸堀に移転
08/07	YTV よみうりテレビ「たかじんのそこまで言って委員会」で弘原海理事長がロバート・ゲラー東京大学教授と対談
08/10	千葉・富山町測定点の運用開始(千葉富山町・千葉大学伊予ヶ岳地殻変動・地球電磁気観測所)

08/25	「週刊現代」特別取材班編「緊急出版 予兆現象は X デーを警告する！巨大地震と地震雲」(講談社)で紹介
09/02	大阪事務局開設記念パーティを開催(大阪北区・ヒルトン大阪)
09/12	平成 17 年度土佐技術交流プラザ 9 月定例会で弘原海理事長が講演(高知市・高知サンライズホテル)。演題は「大気中の放射性大気イオン(プラスイオン)濃度の異常変化で海溝型津波地震(南海地震)の直前予知は可能か？」
〃	THK 東海テレビ放送「ぴーかんテレビ」のコーナー「ぴーかん TIMES」で紹介。テーマは「グッズだけに頼らない！無料でできる地震防災術」
09/17	「週刊現代」(講談社)で弘原海理事長が宏観異常について解説
10/01	「月刊アサヒ芸能エンタメ！」(徳間書店)で弘原海清理事長が宏観異常について解説
10/19 10/21	共同開発者であるオゴー開発株式会社が「大気イオン濃度測定器を「びわ湖環境ビジネスメッセ 2005」に出展(滋賀長浜市・長浜ドーム)
10/20	社団法人自動車技術会中部支部報「宙舞」に弘原海理事長が寄稿。論題は『大気イオン・宏観異常による地震予知』
10/29 10/30	社団法人長野県建築設計事務所協会、信州建築構造協会の協力を得て、「2005 まつもと広域工業まつり」に参加(長野松本市・セイコーエプソン島内事業所)。前兆現象写真展(両日)、および弘原海理事長による講演会(30 日)を開催。演題は『大地震の予知に挑む e-PISCO の取り組み』
10/30	韓国 SBS ソウル放送「SBS 스페셜 대지진 경고 지금 일본은」(邦題:SBS スペシャルー大震災は警告する、日本はいま)で紹介。弘原海理事長が e-PISCO 地震予知法について解説
10/31	静岡・沼津測定点の運用開始(富士通株式会社沼津工場)
11/01 11/02	オゴー開発株式会社が「大気イオン濃度測定器を「ビジネスマッチング in 香川 2005」に出展(高松市・サンメッセ香川)
11/09 11/11	オゴー開発株式会社、有限会社 ePI-NET 環境・情報ネットワーク総研が大気イオン濃度測定器を国際環境展示会「Enviro Asia 2005」に出展(シンガポール・Singapore Expo)
11/21	ニュースレター2005 年秋号(第 3 号)発行
11/21 12/31	e-PISCO が助言・協力した産経新聞社東京本社 CM「防災王子 ベットで地震予知篇」放映。出演はタレントの高樹千佳子さん
11/28	TX テレビ東京系列「世界びっくり大発見！動物たちの奇跡のパワー」で紹介。テーマは「犬は地震を予知することができるのか？」
12/13	「FRIDAY SPECIAL '05 総集編特別号」(講談社)に宏観異常に関する情報・写真を提供
12/16	弘原海理事長らが断層研究資料センター(大阪西区)を訪問。弘原海理事長の恩師でもある藤田和夫理事長らと対談
12/18	近畿測量専門学校防災講演会「その時、地殻が動いた～南海地震 被害の徹底究明と防災～」(大阪東住吉区・近畿測量専門学校)で原口理事が講演。演題は『NPO の取り組みについて』
12/19	大阪日日新聞が報道(南海地震を想定 防災意識高める 近畿測量専門校で講演)
01/11	弘原海理事長と大阪大学環境電磁波測定ネットワークの山中千博助教授が意見交換、今後協力して研究を進めることで一致
〃	西橋政秀理事(千葉大学大学院)が日本大気電気学会研究発表会学生発表表彰受賞
02/02	第 2 回理事会を開催(横浜神奈川区・神奈川県立かながわ県民センター)
02/02 02/03	第 10 回震災対策技術展(横浜会場)に「e-PISCO 環境防災情報モニターハウス」を出展(横浜西区・横浜国際平和会議場)。阪大環境電磁波測定ネットワークとも協力
02/04	e-PISCO 地震予知講演会 in 東京(主催:弊会、後援:神奈川工科大学)を開催し、弘原海理事長、出

	田勇亀一理事、矢田直之・神奈川工大助教授が講演(東京千代田区・情報オアシス神田)。演題は順に『多地点イオンデータによる海溝型・直下型地震の直前予知』、『淡路島での地震予知の取り組み～東南海・南海・中央構造線地震の最前線から～』、『神奈川工科大学における地震予知の試み～地電位、大気イオン、ナマズ～』
〃	「週刊現代」(講談社)で弘原海理事長が大気イオンについて解説
02/10	「測量」2006年2月号(社団法人日本測量協会)に記事掲載。(学校法人近畿測量専門学校、市民のための南海地震防災講演会)
02/13	兵庫・川西測定点の測定結果をウェブ上で公開開始
03/14	新雑誌「奇想天外」(イーストプレス社)に弘原海理事長のインタビュー記事掲載
03/16	14日の池谷元伺・阪大名誉教授の逝去を受け、弘原海理事長が談話を発表
03/19	サトルエネルギー学会 2006年春の大会で弘原海理事長が講演(東京新宿区・工学院大学新宿キャンパス)。演題は『直下型地震と海溝型地震の直前予知』

収 支 計 算 書

自 平成 17 年 4 月 1 日

至 平成 18 年 3 月 31 日

(経 常 損 益 の 部)

(営 業 損 益 の 部)

【売 上 高】

入会会費収入	814,000	
普及啓発事業収入	891,153	
寄付金収入	333,000	2,038,153

【売上原価】

事業活動費		879,183
売上総利益		1,158,970

【販売費及び一般管理費】

給与手当	960,000	
旅費交通費	259,039	
通信費	395,189	
賃借料	611,926	
水道光熱費	123,176	
会議費	22,728	
印刷費	159,096	
雑費	255,908	2,787,062

営業損失

1,628,092

【その他収支】

借入金返済支出	523,234	523,234
経常損失		2,151,326
税引前当期損失		2,151,326
当期損失		2,151,326
前期繰越損失		2,417,500
当期未処理損失		4,568,826

貸借対照表
平成 18 年 3 月 31 日 現在

(資 産 の 部)

【流動資産】

現金・預金	33,572	
流動資産合計		33,572
資産合計		33,572

(負 債 の 部)

【流動負債】

短期借入金	4,602,398	
流動負債合計		4,602,398
負債合計		4,602,398

(資 本 の 部)

【欠損金】

当期末処理損失	4,568,826	
(うち当期損失)	(2,151,326)	
欠損金合計		4,568,826
資本合計		▲4,568,826
負債・資本合計		33,572

財 産 目 録

平成 18 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

特定非営利活動法人大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

<資産の部>

現金預金 33,572

資産合計 33,572

<負債の部>

短期借入金 4,602,398

負債合計 4,602,398

差引純資産合計 Δ 4,568,826

損失金処理計算書

【当期未処理損失】

4,568,826

【次期繰越損失】

4,568,826

上記のとおりご報告申し上げます。

平成 18 年 4 月 20 日

特・大気イオン地震予測研究会

理 事 長

弘 原 海 清

監査の結果、いずれも適法かつ妥当であることを認めます。

平成 18 年 4 月 20 日

監 事

三 木 幸 蔵

事業計画書

(第3期)

自 平成 18 年 4 月 1 日
至 平成 19 年 3 月 31 日

特・大気イオン地震予測研究会
兵庫県川西市緑台 5-1-43

平成 18 年度事業計画書

特定非営利活動法人 大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

1 事業実施の方針

前年度と同様の方式で、今年度も観測点をさらに増設し、観測点ネットワークを充実させる。地震発生が盛んな地域を選んで多地点観測を行い、大気イオン濃度の前兆的变化が検証可能か、また大気イオンの発生源が推定可能かどうかを検討する。その他、研究会会員には各地の測定情報及び危険推定地域の配信を行う。

普及、広報活動では、従来通りに「大気イオン地震予測法」の基礎を前年度の研究成果をふまえてまとめ、学会等で発表するとともに、研究会や市民サークル等で講演活動を行う。また、マスメディアを通じた広報活動にも務める。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施予定 日 時	実施予定 場 所	従事者の 予定人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支 出 見 込 額 (千円)
大気イオン濃度測定器研究開発事業	環境大気中のイオン濃度を正確に測定でき、なおかつ一括送信できるシステムの改良、開発及びメンテナンス	前年度より 継続	岡山理科大学及び兵庫県川西市緑台5丁目1-43	10名	大気イオン地震予測研究に関心のある者不特定多数	60
全国的な大気イオン濃度測定事業	各地に設置した大気イオン濃度測定器の計測を行う	前年度より 継続	大気イオン濃度測定器設置場所(日本全国で10か所増設予定)	30名	大気イオン地震予測研究に関心があり協力してくれる者不特定多数	10
測定データのオンライン収集・処理・配信事業	各地の大気イオン濃度測定器データをインターネットで収集し、その測定データと前年度のデータから発生源を見極め、インターネット上で公開	前年度より 継続	大阪市西区江戸堀1丁目4-21日宝肥後橋中央ビル304号	10名	大気イオン地震予測研究会 e-PISCOの会員およびデータ提供を希望する者不特定多数	300

研究成果の普及啓発事業(大気イオン地震予測研究会 e-PISCO講演会)	大気イオンと地震との関係についてこれまでの研究成果を発表すると共に、大気イオン測定的重要性を述べ、測定器の普及に努める	前年度より継続	全国各地	15名	大気イオン地震予測研究会 e-PISCO講演参加者	50
研究成果の普及啓発事業(大気イオン地震予測研究会 e-PISCO出版物)	前年度の研究成果による「大気イオン地震予測法」の基礎をまとめ、その原理と応用のための解説書を発行する	前年度より継続	大阪市西区江戸堀1丁目4-21日宝肥後橋中央ビル304号	5名	出版物(約1万部発行予定)の読者不特定多数	0

平成 18 年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書

(平成 18 年 4 月 1 日 から 平成 19 年 3 月 31 日 まで)

特定非営利活動法人 大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

科 目	予算額	備 考
事業活動収支の部		
I 事業活動収入		
1 入会金収入	400,000	@1,000×400 人
・会員入会費		
2 会費収入		
・正会員会費	2,614,000	@5,000×425 人+3,000×168 人
・賛助会員	200,000	@10,000×20 口
3 事業収入		
・講演会費	1,000,000	@1,000×1,000 人
・研究会出版物等	0	
4 寄付金収入	1,500,000	
事業活動収入合計	5,714,000	
前期繰越収支差額	▲ 4,568,826	
収入合計	1,145,174	
II 事業活動支出		
1 事業費		
・大気イオン濃度測定器研究開発事業	60,000	
・全国的な大気イオン濃度測定事業	10,000	
・測定データのオンライン収集・処理・配信事業	300,000	
・研究成果の普及啓発事業（講演会）	50,000	
・研究成果の普及啓発事業（出版物）	0	
2 管理費		
・役員報酬	0	
・会議費	30,000	
・交通費	200,000	
・印刷製本費	150,000	
・通信費	400,000	
・通信設備費	0	
・人件費	720,000	@60,000×12 月
・光熱費	60,000	
・家賃	360,000	
・宿泊費	60,000	
・雑費	150,000	
・予備費	20,000	
事業活動支出合計	2,570,000	
事業活動収支差額 (A)	▲ 1,424,826	
その他収支の部		
III その他収入		
1 借入金合計	1,500,000	
2		
その他収入合計	1,500,000	
IV その他支出		
1 固定資産取得支出	0	
2 借入金返済支出	75,174	
その他支出合計	75,174	
その他収支差額 (B)	1,424,826	
当期収支差額 (A) + (B)	0	
次期繰越収支差額	0	